原発事故で休校に！ 双葉高 浪江高と津島校 双葉翔陽高 富岡高校

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.397

2023（令和5）年8月31日（木）発行

今年の「夏の高校野球」は慶応107年ぶりの優勝、仙台育英の二連覇成らずが話題になりました。しかし原発事故のため、相双地区では5つの高校が休校に追い込まれましたが、甲子園3回出場の“双葉高校”は休校中でもこの10月に百周年の記念式典を行います。人生や地域や文化を破壊する「原発事故」の不条理は、広範に永遠に続きます。

自由に物が言えて活動できる時代のはずですが、声を出し意見を述べたり、行動したり、広く発信するには勇気が必要です。会員さんの最近の発言や活動を紹介します。

会員さんの活動① 一人ひとりを大切にする社会に

映画『テレビで会えない芸人』で有名なピン芸人、「憲法くん」でおなじみの松元ヒロさんは2006年6月以来「はらまち九条の会」の大切な会員さんです。原発の放射性廃棄物についてや、憲法の「個人の尊重」について、全国紙で熱く強く訴えています。

▼2023年8月4日『朝日新聞』より

10万年先の顔 政治は見ているか

リレーおぴにおん 長すぎる 11

ピン芸人 松元（まつもと） ヒロさん

1952年生まれ。痛烈な政治風刺で、観客の笑いを誘うソロライブを続け、その姿を追った映画「テレビで会えない芸人」が話題に。

10万年――。原発から出る高レベル放射性廃棄物は「核のごみ」と呼ばれ、出たばかりの時は、近寄ると約20秒で人が死ぬほどの強い放射線を発しているそうです。安全になるまで10万年ほどかかると言われています。

こんな危ないものをどう管理するのか。人間が考えたのは、地下深くに10万年間封印する方法です。核のごみをステンレス製の容器に流し込んで固めていって埋めるのだそうです。

気が遠くなります。歴史の教科書を開くと、現生人類（ホモ・サピエンス）が現れたのが16万年以上前で、それがアフリカを出て世界に広がったのが6万年以上前。顔かたちも話す言葉も現在とは全く違い、当然、私の出身の鹿児島に先祖は存在していないわけです。「危険だから近寄るな」と今の言葉で警告しても、10万年後の人たちが読むことができるのでしょうか。

私は思うんですよ、こういう設計をしている人々に、10万年後の私たちの子孫の顔が見えているのか、と。見えていないのでは。顔が見えていれば、こんなリスクが高いものを将来世代に押しつけることはできない、ですよ。

20年以上、一人芝居「憲法くん」を演じてきました。日本国憲法を人間に見立て、その大切さを、笑いを通じて伝えてきました。憲法の核心は、「個人の尊重」です。多数派とか少数派とかレッテル貼りをせず、一人ひとりの顔を見よ、と権力者に命令しているのです。だれでも幸せを感じることのできる社会を作るように、と。

私にとって切実に長すぎるのは、一人ひとりの顔を見ない政治が、変わらずに続いてきたことです。同性婚はなぜ法律で認められないのか。選択的夫婦別姓もそう。LGBT理解増進法の中身も大きく後退しました。苦悩を抱えて生きている人たちの顔が政治家には見えていない。10万年先の子孫の顔だって見えないのでしょう。政権は原発推進にアクセルを吹かせています。

同性婚の法制化をめぐって、岸田文雄首相は、「社会が変わってしまう」と発言しました。一人ひとりを大切にする社会へ変えていきましょう。死ぬまでに社会の変化を見届けたい、という夢と希望が私にはあります。

（聞き手 編集委員・豊秀一）

会員さんの活動② 「安保3文書の撤回」を政府に求める

会員の**荒木千恵子さん**（新日本婦人の会南相馬支部長）が請願者となり、「平和、いのち、くらしを壊す大軍拡などを決定した『安保3文書』の撤回を日本政府に対し求める意見書」を6月の南相馬市議会定例会に提出し、議員22名中＜賛成＞は12、＜反対＞9、議長1で「意見書」は可決されました。＜賛成＞の12名には、本会会員の小川尚一さん、渡部一夫さん、櫻井勝延さんが含まれています。**荒木さん**は「ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の挑発などに乗じて、日本政府自身が不安をあおり大軍拡をしようとしています。軍事力増強ではなく、福祉や教育、自然災害対策などを優先すべきで、今こそ日本国憲法の平和主義にそった対応を強く求めたい」と訴えています。

＜『みなみそうま市議会だより』令和５年８月１日号参照＞

安保3文書とは

国家安全保障戦略
外交・防衛の基本方針を定める

国家防衛戦略
防衛力の水準を規定する

防衛力整備計画
5年間の防衛費の総額43兆円、装備の数量を定める

震災後の、南相馬市議会の注目の議決

大震災でお世話になった自衛隊員を守れ！

①2014年6月19日「集団的自衛権行使容認に反対の意見書」可決。
②2015年3月25日「脱原発都市宣言」を表明。*県内初で、全国でも稀な表明です！*
③2015年6月16日「市による『憲法』冊子の発行・全戸配布」決定。　*これは私たち「はらまち九条の会」の陳情が採択されて実現。現在も成人式に市が『憲法』を配布！*
④2015年7月2日「安倍内閣の安保法案廃案へ意見書」可決。*県議会は前日に否決！*

会員さんの活動③
震災後のエッセイ集『南相馬市からの便り』を発行

子どもたちの明日、未来のために一緒に行動しませんか！

25 年前に、核の時代を生きる人間の心を予測して語ったジョアンナ・メーシーの「絶望こそが希望である」という言葉が甦っています。何事もない平穏な暮らしが続く中で「絶望」に取り憑かれた沢山の人がいる日本の社会。私たちは原発事故という嵐に晒され人間の原点を体験しました。（略）

希望の象徴は子どもです。私たちは、絶望の中からも希望が生まれてくることを身をもって知りました。もしかしたらこの地は「核の時代を生き抜く希望を紡ぎだす」という大きな使命を与えられたのかも知れないと思うようになりました。絶望の底に希望が隠れていることを知った今は、恐れずに絶望に目を凝らし、真実をみようとすることができるようになりました。南相馬ではそれを踏まえて新しいチャレンジをしようという志を持つ人たちが行動を始めています。（略）　（『南相馬からの便り』2013年10月10日より）

会員の**高橋美加子さん**（前・北洋舎クリーニング代表取締役）は、大震災や原発事故で破壊された地域の再生のため、「まなびあい南相馬」という団体を立ち上げます。住民からの聞き取りを行い、南相馬の歴史、昔の生活のことをまとめあげ、冊子『語り継ぐ、ふるさと南相馬』1・2を発行します。

さらにこのほど、震災直後から2015年5月19日までの高橋さんのエッセイを、20ページの冊子『南相馬からの便り』として発行。大変好評です。